

ふるさとを語る

兵庫県は、日本の縮図と言われるほど多様な魅力をもつ県で、多彩な人材を輩出しています。そこで、毎回、さまざまな分野で活躍中の方に「ふるさとひょうご」を語っていただいています。

今回は、明石市出身のシンガー・ソングライターのMasacoさんに、入江県人会事務局長（兵庫県東京事務所長）がお話を伺いました。



まさこ
Masacoさん

明石市出身。シンガー・ソングライター。

陶芸家・小倉千尋を祖父、小倉健を叔父にもち、多くの作品の中に込められた真心や自然の調和など、自身の歌が重なり合うことがある。学生時代は陸上ランナー、全日本インカレ出場を果たす。公務員となったが、「歌い手になりたい」を実現すべく退職し上京。NHK朝の連続テレビ小説出演などを経て、ラジオパーソナリティーとしても活躍。第3級アマチュア無線技士の免許を持ち、アマチュア無線情報誌の連載を手掛けるなど、マルチタレントとして各方面で活躍中。

故郷への想いも強く、兵庫県の「ため池」保全活動活性化のイメージソングとして作詞&歌唱を手掛けた「ふるさとの宝」が披露される。2018年8月にニューシングル「晴れおんな」をリリース。

くの間は、テレビドラマや企業CMなどのお仕事をいただいています。でも、どうしても歌い手になりたかったこと、私自身不器用なので、中途半端にやっていたら一つも成功せずに終わってしまうと思い、社長さんに、「歌い手になるために東京で勝負したい。」と相談をして、上京する決意をしました。

東京には親戚も知り合いもなく最初はとても苦労しました。住む場所を探るところから始まり、アルバイトを朝昼晩と三つ掛け持ちする生活。ライブハウスに出たいと思ってもオリジナル曲もないし、作詞・作曲を頼む相手もない。それなら自分で作るしかない。全く作曲の勉強をしていなかった。鼻歌だけで何曲か作って南青山のマンダラ（Mandala）というライブハウスに売り込みに行きました。すると「うちのステージに立つのは何十年も早い。」と門前払い。それでも、「どうしてもこのステージで歌いたい。」と言うと、「それなら、修行してきて。」と同系列のライブハウスを紹介していただきました。そこで3年ぐらい毎月4〜5本ライブを続けて、やっと念願だった南青山のマンダラのステージに立たせていただくことができました。南青山のマンダラは私を育ててくれたライブハウス。今も大事にしている、定期的に出演させていただいています。

この時代に、神戸出身のパークッション・ドラム奏者の福長雅夫さんと知り合いました。東京ドームや海外での演奏活動など活躍されています。ふるさとが一緒だというだけで一気に繋がって、そんな仲間が今も私の歌の道を支えてくれています。

事務局長..神戸の事務所の社長さんは、この世界に導いてくださった恩人のような方だとお聞きしました。

Masacoさん..上京してからも、大変

事務局長..明石市のご出身ということで伺っていますが、最初に幼い頃の心に残っていることについてお聞かせください。

Masacoさん..私は、明石市で生まれ、一時期、播磨町にも住んでいました。小さい頃から歌が大好きで、家では、こたつをステージに歌っていましたが、内弁慶で学校で先生に質問されても手を挙げるのが恥ずかしいくらい消極的でした。人前では全く歌えなかつたので、ステージに立っている自分は想像もできなかつたです。

事務局長..大学時代に陸上競技でインカレ出場を果たされていますね。

Masacoさん..実は小学校の時に、リレーの代表に選ばれても、緊張のあまり人前で走ることができないので、母に代わりの友達を探してもらったくらいでした。中学校入学のときには、音楽が好きで合唱部に入る予定でしたが、大好きな男の子が陸上

部に入ると聞き、私も陸上部にまっしぐら。その男の子はとても速くて有名で一緒に大会へ出場するには自分も速くならなきゃ！と一生懸命練習するようになり、それから性格がどんどん積極的になりました。陸上競技の魅力にどっぷりはまって、真っ黒に日焼けするほど毎日走り続けていました。

武庫川女子短期大学に進学し、陸上競技部へ入ると、部員は百数名。私は食生活学科でしたが、なんと私以外全員が体育科でとても驚かれました。そんな環境ですごく採まれていろいろ鍛えられました。（笑）最後の最後で、全日本インカレ出場を果たして、国立競技場を走る夢が叶いました。

事務局長..大学卒業後、公務員として勤務のあと、公務員を辞めて歌手になろうと思われたきっかけを教えてください。

Masacoさん..卒業後も実業団の陸上部に入りたかったのですが、顧問の先生か

ら、東京の実業団を紹介され、その頃は東京に行く勇気がなかつたので諦めました。これからどうしようと迷っていた時、公務員試験を勧められ、就職しました。パソコンのお仕事で追われる毎日の中、「歌ってみませんか？夢を叶えませんか？」というボイストレーニングの新聞折り込み広告を見つけ、幼い頃に憧れていた純粋な感情が湧き、「ああ！これだ！」とレッスンを始めたのが、きっかけです。

その後、神戸のアナウンススクールの社長さんと出会いました。「歌うことも語ることにも全てに通じるものがある。日本語の勉強を一からやりませんか？」と声を掛けていただき勉強。4年後に、歌やアナウンスの仕事がしたくて公務員を辞めました。

事務局長..上京されたときのことを教えてください。

Masacoさん..公務員を辞めてしばらく

お世話になりました。社長さんには、「東京で一人看板を持って動くのは絶対危険だ。何かあればうちの神戸の事務所の名前を呼んでもいい。できる限りのサポートをする。」と言っていたいただきました。

社長さんからは茨城放送のラジオパーソナリティーのお仕事もご紹介いただき、「Masaco 歌のタイムマシーン」というレギュラー番組を任せられ、毎週のように、水戸市まで通っていました。社長さんも、いつも、神戸から東京に出てきて、水戸まで付き添ってくれました。このラジオを聴いた方がイベントや企業のパーティなどに呼んでくれて、本格的に歌の仕事をさせていただけるようになりました。

実は、その社長さんは、3年前に突然亡くなられたのです。お元気な頃に、「この歳になったら突然の別れがやってくるのが多くて悲しい。こんな話をしたかったと、すごく後悔している。」という思いを聞きました。社長さんの気持ちを歌詞にしてお見せしたら、「これは良い。曲をつけて次回作にしたらいい。楽しみにしているよ。」って。ところが、突然の病に倒れ、天国へ逝ってしまいました。そこで、お別れ会では、この曲を完成させて聴いてもらいたいと思い、出来上がったのが「むこう岸」です。その後、この曲をライブでも聴きたいというお声や、「CDにしたら。」と



いうお話もいただきました。社長さんの追悼のために作った曲ですが、たくさんの思いを受けて形になりました。大事な人が命をもって教えてくれたことを心に刻んで、笑顔で毎日一歩ずつ進もうという前向きな想いを込めています。

事務局長…アマチュア無線をされているそうですね。

Masacoさん…茨城放送のラジオ番組でアマチュア無線の話題になったときに、阪神・淡路大震災のニュースで、アマチュア無線が通信手段としてとても大きな役割を果たしたという特集があったことを思い出しました。神戸の社長さんからも、「年齢や性別を超えて世界中の人と繋がる事ができるよ。」と言われ、とても魅力を感じ、頑張っただけ許を取りました。

趣味で少しずつ交信を始めた頃、「F B ニュース」というウェブマガジンの編集者の方から「もっと無線の楽しさを広めるために。」と連載のお話をいただきました。

この連載「Masacoのむせんのせかい アイボールの旅」を通じて、アマチュア無線クラブのある学校や企業へ取材でお伺いしています。兵庫県だと「灘校アマチュア無線研究部」の皆さんに楽しいお話を聞かせていただきましたよ。

事務局長…兵庫県の「ため池」保存活動に参加されるようになったきっかけを教えてください。

Masacoさん…2015年に、兵庫県立農業高校「ため池研究会」顧問の先生から、ため池の保全活動のイメージソングをつくりたいとお話がありました。それまで私には、ため池は景色の一部でしかありませんでした。兵庫県は全国で最もため池の数が多いこと、先人の方々が、雨が少ない兵庫の地で生きるための水を求めて、智慧を絞り、汗を流してため池を作ったことを

初めて知りました。

多くのため池を訪ね、地域の方々から話を聞いて出来上がった歌詞に、ため池研究会の生徒さんと音楽の先生と一緒にメロディーをつけたのが「ふるさとの宝」という曲です。この曲は、東播磨地域のいなみ野ため池ミュージアム運営協議会主催のイベント「次代と語る『ため池』交流会」で、生徒さんと一緒に初披露しました。これを機に、県のため池の担当者の方からの、イベントへのお声掛けも増えていきました。高砂市立北浜小学校では「ふるさとの宝」を校内で流してくれていることを知り、先日、ご挨拶に伺いました。そのとき、子供達が皆でこの曲をサブライズで合唱してくれて。涙、涙の感動の時間でした。

「ふるさとに帰ったらこの歌が流れているなあ」「あの田園風景を思い出さなあ」とか、そんなふるさとへの想いがみんなに広がってほしいなと思っています。

事務局長…ほかにも「ふるさと」をイメージした歌を歌われていますね。

Masacoさん…「子午線のみち」という曲は、明石市立天文科学館を始め、地元でもよく聞いていただいています。私が生まれた街「子午線のまち・明石」。天空を結ぶ無数の道「子午線」。どこにいても「同じ空の下」でふるさとと繋がっている、だからふるさとを離れても頑張ることができるという想いがつまっています。新しいCDに収録されている「わたしのふるさと」もテーマは「明石」。でも具体的には地名は入れていません。みんなそれぞれのふるさとを想い浮かべてほしいなと思っています。

事務局長…これまで、歌、ラジオのパーソナリティなどいろいろされていますが、今後はどのような活動を考えられていますか。

Masacoさん…ずっと歌い続けたいです。それとアマチュア無線、ため池の保全活動やラジオ、ナレーションなどのお仕事も大好きなんです。歌を聴きに來られた方から、おしゃべりが面白いとお仕事をいただくこともあります。歌を基盤にして、でもチャレンジ精神は旺盛なので、マルチに活動していきたいです。

事務局長…最後に東京兵庫県人会の会員の皆さんへメッセージをお願いします。

Masacoさん…私はふるさとを通して育ててもらいました。ふるさとに帰ると純粹な夢を持って自分に戻れるのです。「大きな報告もないのに」と、帰るのが嫌だった時期もありましたが、ふるさとの皆さんは良いときも悪いときも、いつも同じように接してくださるんです。さりげなく、でもどっしりと、あたたかいふるさとがあるから東京で頑張ることが出来る。個人で活動をする中で、いろいろな現場で皆さんが手を差し伸べてくれ、事務所のようにサポートしてくださり感謝の気持ちでいっぱいになります。私はその想いを、歌や笑顔や元気なパワーでお返ししたいです。東京兵庫県人会や「のののの会」でも心が豊かになる出会いをたくさんいただき背中を押してもらっています。これからも応援よろしく願っています。



Masaco 公式サイト
<http://www.19box.net/masaco/>